

Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……………

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまずきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……………

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

ディスレクシアの起業家のためのワークショップ

館野 智恵子

英国の起業家の20%はディスレクシアだそうです。40%だ、という人もいます。素晴らしいアイデアにあふれたDX(ディスレクシア)達に成功してもらえば、英国経済のためになるということで政府が資金を出しているワークショップを見学してきました。

仕事からの帰り道に参加できる、6時半から8時半のワークショップが4回あります。見学したのは3回目の集まりです。前回までに、どんなアイデアを仕事にしたいのか、またDXである参加者それぞれの強みをどう生かすか、弱みをどう補うかなどを話し合ったそうです。

ビジネスのプロとディスレクシアのプロが組んで話しを進めます。ビジネスに必要な考え方、プランの立て方は年配の英国紳士です。ところどころで、元は大学生のサポートをしていた人がDXの役に立つアドバイスをはさみますが、主役は参加者で、それぞれ活発に意見を述べていました。

今回の参加者は5人で、いつもより少なめだそうです。エネルギーは10人分です。メインになる作業は、グループに分かれて、それぞれの仕事のプランを聞いて発表する、というものでした。自分の、ではなく組んだ相手のプランを発表しま

す。見方や考え方が違う人が質問をしながらプランを大きな紙に書いていくわけで、「今まで言ってなかったんだけど」というものが出てくるのが面白いです。

頭の中になんとなくあったプランが紙の上に現れて、興奮する人、ため息を付く人、いろいろでした。それぞれの経験から良いアドバイスが出てきます。

コンピューターに弱い人もいて、当たり前のように知っていることを教えて喜ばれ、驚きながらも嬉しそうなウェブデザイナーの笑顔が印象的でした。

「私はここが駄目、あそこが駄目」

あなたの手にとる一冊が、子どもたちに大きな未来、そして愛を与えます。

TD-751

マッケンジー・ソープ
～愛をはこぶカレンダー～

608×425mm・7枚

店頭希望小売価格
1400円(税別)

* * * * *

ディスレクシアを乗り越え、作品を通し「希望・愛・喜び」を伝えているマッケンジー・ソープ。色鮮やかな色調と、ストーリーを感じさせる独特の世界が、見る人の心に優しさを与えてくれます。このカレンダーは、『愛をはこぶ人キャンペーン』を通し、売り上げの一部を寄付します。

2009年版
カレンダー
完成!



〒114-0012 東京都北区田端新町2-28-3 株式会社トーダン カレンダーミュージアム事業部 TEL 03(3810)2276 FAX 03(3810)0720

みたいな人には「DXじゃなくたって、そういう人が沢山いて、いつも職場であきれてるよ。」と励ましの声がかかります。弱点を知って、対処できる私達のほうが、知らずに迷惑をかけて平気にいる人たちより良

いじゃないか、ということです。最後に、仕事を始めると、気分の浮き沈みを経験するが、それを乗り越えた先に成功がある、という話があり、参加者は真剣な表情で聞いていました。

主催者にとって、まだ2度目のワークショップですが、いずれも参加者があつと言う間に仲良くなり、助けあうのが素晴らしい、と言っていました。 2008年4月

役に立つウェブサイト

DYSLEXIA ADULT LINK

● <http://www.dyslexia-adults.com/a15>

Being Dyslexic

● <http://www.beingdyslexic.co.uk/>

Dyslexia Assessment and consultancy

● <http://www.dyslexiaassessmentandconsultancy.co.jp>

Disclosing dyslexia

● <http://www.skill.org.uk/uploads/disclosure.doc>

Technological aids

● <http://www.dyslexic.com>

吉野保育園について

社会福祉法人「吉野福祉会」 吉野保育園 園長 川越勇藏

私どもの吉野保育園は、宮崎市の北部、田園風景が広がる緑豊かな場所に位置しております。狭い土地事情から、園庭が無い、もしくは時間割で使用する、散歩を兼ねて危険な道路を保育士引率の元、近くの公園へ行く、という保育園が多い中、恵まれた環境であると思います。

私がNPO-EDGEを知ったきっかけは、6年程前になります。

夕方、園児をご家庭へ送り届け保育園へ戻る送迎バスのNHKラジオ放送を聴いておりました。NPO-EDGEの藤堂栄子さんが発達障害のある子どもへの理解・ディスレクシアについての話をしており、当時、肢体不自由や自閉症の園児が入所していましたのでラジオから流れる話に関心が湧き、早速放送局に問合せ、EDGEとコンタクトを取りました。同時にLD・ディスレクシア・AD/HDについて情報収集を行い、勉強をしていきました。

自閉症とLD・AD/HDの違い、LD・AD/HDとは何なのか？

お恥ずかしい話ですが、それまで

LD・ディスレクシア・AD/HD等があるとは知りませんでした。

さらにヨーロッパでは既に多くの人々が認知し、国民が理解し支援体制も整っていることを知った時は「カルチャー・ショック」を受けました。

1年後の11月、吉野保育園でLD・ディスレクシア・AD/HDの子育て講演会を行いました。その中で、本人がLDの石田博章さんのお話や、藤堂さんの話を聞き、LDへのより深い認識、周りが理解しサポートしてあげること、イジメやトラブルを避けることが可能であること、その子どもに応じた適切な方法が必要である事等を学びました。エジソンやアインシュタイン、映画俳優のトム・クルーズ、キアヌ・リーブス、そして黒柳徹子さん、身近にこんな沢山のLDの方が居ることを改めて知ることが出来ました。一人でも多くの方がLD・ディスレクシア・AD/HDについて認識・理解を深めて頂きたいと思っております。

講演会スタートから4~5年が経過、なぜ、こんな(簡単な)ことが

出来ないの？ 言うことが聞けないの？ じっとしてられないの？ 時間を守れないの？ そんなに忘れ物が多いの？ 部屋などをちゃんと片づけられないの？ そんなに幼いの？ 喧嘩ばかりするの？ 友達ができないの？ いじめられるの？ のろまなの？ こんなにうるさく言っているのに、家庭のしつけが悪いの？

愛情不足？ 本人の努力が足りないの？ 構いすぎ？ 我が子の「こんなことで悩んでいる」保護者の皆様とも面談を個別に行い、アドバイスをしたり色々な話を伺ったりしております。職員とも、LD・AD/HDを疑う子どもの対処方法について定期的に勉強会を開催しております。



パーソナルストーリー:DX会会員 さすらいの塗り絵マン

亀松陽二(仮名)

どうしてエッジとかかわるようになったのですか。

3年ほど前、難読症とかディスレクシアをネットで調べているうちにエッジを見つけました。エッジの事務所が自分の会社の近くにあったので、すぐに行ってみました。初めは緊張しましたが、DX会で同じような人がけっこういたので、安心して、遊びに来る感じです。

エッジの藤堂さん(右)と柴田さん(中央)のイラストは特徴をとらえていて、よく描けています。そっくりじゃないですか。

エッジに来たら、柴田さんのキャラが気に入ったので、イラストにしました。会社を抜け出して、しばらくスケッチしてから、けっこう苦労して描きました。これはお気に入りの



キャラクターです。藤堂さんは学生時代に、「メスのタヌキ」と呼ばれていたそうなので、タヌキのイメージで描きました。柴田さんから比べるとそんなに時間がかかりませんでした。これからもどんどんキャラクターを作るつもりです

子どものころから絵が好きだったんですか。

小学校のとき、教室で、机の上に落書きをしていました。校庭の砂に絵を描いていました。夢中になると、先生の指示をほとんど聞いていませんでした。

ディスレクシアに気づいたのはいつごろですか。

子どもころはディスレクシアとか、難読症なんてことは知りませんでした。が、なんとなく、おかしいなあと思っていました。小学校1、2年のとき、音読すると、すごく遅かったです。慣れてくれば、できるだろうと思いましたが、ちっとも速くなりませんでした。黒板を写すのもたいへんで、普通のクラスメートより顔を上げたり、下げたりする回数が多くて、授業を聞いている暇がありませんでした。

検査を受けて、診断されたときどうでしたか。

エッジの紹介で、病院で受けました。短期記憶障害と診断されました。電話番号の記憶も三桁以上になると、覚えるのがたいへんです。「やっぱりねえ」という感じがしました。たぶん、今までの悩みの一つがわかったので、これでみんなに説明できる。「俺って、面白いだろう」と。

子どものころになりたかったのはなんですか。

相撲取りになりたかったです。父親の影響で、遊んでもらっているうちに相撲好きになりました。今でも相撲は楽しみにしています。今度新弟子検査を受けてみたいと思っています。

今後、どんなことをしたいですか。

当事者しかわからないことを教育現場で、訴える活動をしたいと思っています。例えば、講演会を開いて、子どもたちにディスレクシアの人々ってどんな人かを教えていきたいです。研究者や専門家ではなく、当事者ではないとわからないことはいっぱいありますから、生徒たちに記憶に残る話をしたいです。それからイラストを描いていきたいです。

ネットワーク

最近の活動紹介

- 2008年4月6日 JDD(日本発達障害ネットワーク)理事会
6月1日 JDD協議員総会
6月22日 LD親の会フォーラム(東京)

今後の活動予定

- 11月22~24日 LD学会(広島)
12月13~14日 JDD第4回年次会(目白大学)

啓発パンフレット

子育て編

JDD ネットから「子どもが育てにくい、育児がうまくいかないと思ったことはありませんか?」と題して三種類(1歳半の子育て編・3歳の子育て編・就学前の子育て編)のパンフレットが届きました。英語版もあります。

就労編

障害者職業総合センターから「就職支援ガイドブック」が届きました。発達障害のある人々に親切に就職までの道のりを例題にそって、アドバイスをします。「子育て編」も「就労編」もご興味のある方は事務局にお問合せください。

個別支援室と学習支援員の仕組みと効果 ＝コミュニケーションと連携＝ 発表会

NPO法人エッジ 会長 藤堂 栄子

2008年5月24日に赤坂区民ホールにて実践研究の発表会を行った。NPO法人エッジは港区と協働してこれまでになかった通常学級内の特別支援教育の一環として「学習支援員(LSA)」を育成するプログラムを作り実際に育成して、その上で教育委員会や学校と連携を組みつつ、対象となる児童生徒のニーズを見極め、ひとりひとりに合った支援を構築して、ふさわしいLSAを派遣している。しかし、LSAが入ることによってどのような変化が生まれるのかはおぼろげながら予測はつくものの、実際にその効果を測る方法はない。また、支援を支える仕組みとして港区では港区特別支援教育「個別支援室」を設け、その運営をNPO法人エッジに委託している。また、LSAの資質の向上や情報の共有のためにフォローアップセミナーや情報交換会も頻繁に行い、十分とは言えなくても個別支援室で後方支援を行っている。そのような背景から19年度は文部科学省から委嘱を受け「障害の

ある子供への対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の枠組みで個別支援室と学習支援員の仕組みと効果を調べた。多くの効果があがっている実感がありますが、アンケートやヒアリング、個別の指導計画などを通して、実践から見えてきた効果的な学習支援員の活用の事例を挙げながら、教育関係者、教育委員会、各地で教育支援をしている方たち、ニーズがあるかもしれないと感じられている保護者の方たち、民生員、保健士の方、地域の方たちなどに役立つ発表であった。

前半は藤堂からかいつまんで通常学級内の特別支援教育現状と港区における取組についての説明と今回の調査から読み取れることを発表した。後半は壇上に教育委員会の指導主事、個別支援室の相談員、学校のコーディネーター、LSA(学習支援員)が並び、それぞれの立場からこの制度が効果的に働くための提言などをパネル方式で行った。

課題

港区としての課題はともかくとして、現在の日本における学習支援員の課題は地域間格差であろう。支援が進んでいる地域では教員の意識も高く自主的に勉強会などが行われているが、地域によってはせつかくの予算が違う目的に使われてしまって本来の「教育支援員」に使われていない状況もある。

結び

このシステムは東京の港区だからできたのではなく、どのような地域でも最低限のポイントをつかんでいけばより効果的な支援ができる。そのために役立てていただければと思う。

☆発表会の様子はDVDとして販売します。1枚(報告書込み)3,000円で予約販売いたします。発送は7月中旬以降です。お申込をお待ちしています。詳しくはNPOエッジ事務局にお問い合わせください。

速報

2008年6月10日の衆議院文部科学委員会及び本会議において「教科書バリアフリー法案」は全会一致で可決・成立しました。



DX会キッズ&ティーンズクラブ

昨年4月に開講しましたディスレクシア塾が終了を迎え、今4月より「DX会キッズ&ティーンズクラブ」と名称を変え、新たなスタイルで学習を進めていきます。

DX会キッズ&ティーンズクラブでは、主要三科目に関して、児童生徒の特性を活かし、一人一人のラーニングスタイルにあわせて、学習スキルを身につけられるよう、プログラムを組み、個別の対応をします。また、仲間との出会いやコミュニケーションの場としても、お子様が楽しく通えるような環境をつくりたいと思います。

昨年度は、算数・数学は数の概念を理解しやすい珠算、国語は少人数のグループに分かれてマインドマップやPCタッチタイピング、英語は単語が正確に発音でき読めるようになる学習法のフォニックスを使用して、1時間のクラスを行いました。本年度は、その経験に基づいて、いろいろな感覚を使いながら、一人一人の得意な分野を伸ばし、お子様の自信や学ぶ楽しさにつながるよう、指導してまいりますので、よろしくお願いいたします。(文責:木村綾子)

開講曜日	月(算数・数学)、水(国語)、金(英語)
開講時間	小学生(午後5:00~6:00)、中学生以上(午後6:30~7:30)
開講頻度・回数	各クラス週1回1時間、年間36回
定員	各クラス8名
場所・連絡先	港区浜松町2-3-20 港区子ども家庭支援センター2階 地域活動室 TEL & FAX 03-5401-1199 E-mail:minatolsa@yahoo.co.jp
費用	入会費:10,000円(入会できなかった場合はお返しいたします) 入会前相談費:10,000円 受講料:1科目4回につき(国・数)10,000円 (英)12,000円

マルチメディア DAISY 教材による ディスレクシアへの支援

(財)日本障害者リハビリテーション協会
情報センター次長 野村 美佐子

DAISY(Digital Accessible Information System)は、日本語でアクセシブル(誰でも利用できる)な情報システムと訳し、デジタル録音図書の国際標準規格としてDAISYコンソーシアムによって開発とメンテナンスが行われている。

マルチメディア DAISY 図書は、パソコンで再生すると文字、音声、画像が同時に表示され、利用者は読んでいる箇所の色が反転するのでどこを読んでいるかを確認することができる。読みたいページに

移動もできる。また再生プレイヤーで、文字の大きさや音声のスピードを変更し、読みやすくすることも可能である。更に、キーボードが苦手な利用者は、タッチパネルを利用することで操作が簡単になる。

最近では、教科書をマルチメディア DAISY 化することで、読み書きに困難を抱えている児童や生徒の読みと理解を助けるツールとしてその有効性が認められるようになってきた。しかし、ボランティアによる DAISY 化が行われ

ているが、著作権法の壁があり、なかなか普及が進んでいない。今後は、法律の中でマルチメディア DAISY の教材が保障され、多くの読み書き障害の方々への広がりが期待される。



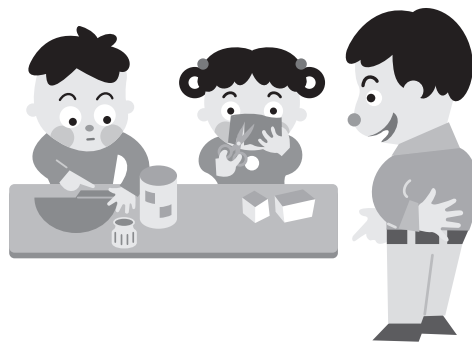
不器用さのサポート

佐々木 清子

私は、感覚統合の発達理論を基礎におき作業療法士として、不器用さをもつ子どもの援助をしています。子どもは、様々な感覚運動遊びを通し、姿勢を保持しバランスを保つ機能などの基本的な身体機能を高めながら、身体のイメージを作り、さらに、どうやって遊ぶかといった運動企画能力を身につけていきます。そして、空間関係を学び、手足の協調性や目と手の協調性を高め、手の巧緻動作など少しずつ難しい動作ができるようになっていきます。鉄棒や跳び箱ができない、縄跳びができない、笛を上手く吹けないといった子どもの不器用さの原因は様々です。

時には、姿勢保持やバランス機能の困難さが関係しているときもあるのです。できないことを繰り返すだけの練習は時に子どもの負担を多くするので、なぜ難しいのかを細かく分析し、子どもに合わせて遊びを段階づけ展開していきます。また、子どもは、できない自

分を意識し臆病でいることも多いので、子どもが楽しみながら行えるよう子どもの主体性を重視しています。こういった関わりの中で、子どもは、できた体験を積み重ね自信を持てるようになり、自分の力を最大限に発揮できるようになっていきます。



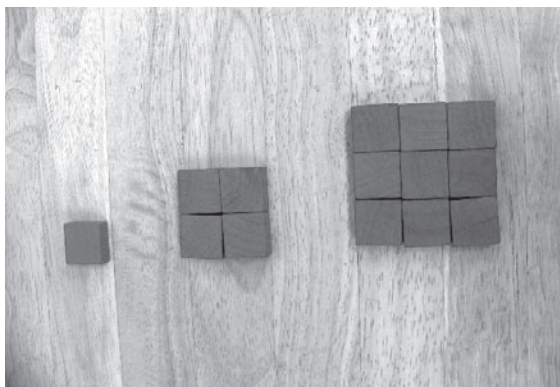
「パターンプロックでわかる感動」 ディスレクシア当事者の見る教材：算数

柴田 章 弘

ディスレクシアの子どもであった私は図形の面積を理解するのに時間がかかりました。何度ながめても、教科書の図が何を表現しているのか、頭がついてゆかないことがよくありました。例えば、正方形の面積は、 $1\text{cm} \times 1\text{cm} = 1\text{cm}^2$ 、

$2\text{cm} \times 2\text{cm} = 4\text{cm}^2$ 、 $3\text{cm} \times 3\text{cm} = 9\text{cm}^2$ になります。一辺の長さが2倍、3倍になるとなぜ面積が4倍、9倍になるかを説明されてもチンプンカンプンでした。今回、紹介する教材、パターンプロックで正方形一つ、四つ、九つと並べてみると、一辺の長さが2倍になると面積が4倍なる、一辺の長さが3倍になると面積が9倍になることが一目でわかりました。これをことばで表現したり、平面上の図で描いてあるだけでは

ディスレクシアの子どもには理解が難しい課題になります。大人になって、このパターンプロックを使って、並べてみて、面積はこのように変化するのだとわかり、頭に筋道が見えてきました。わかるって、気持ちがいい。今考えると、小学生のとき、九九の公式もパターンプロックを並べるともっと簡単に理解できたはずでした。



参考文献

パターンプロック
タスクカード 基本 50 選
高橋昭彦 著 2600 円
東洋館出版社

個別支援室だより 第7期学習支援員募集

学習支援員（LSA：ラーニング・サポート・アシスタント）とは、学校の教室で担任の先生と協力して、学習困難の子供たちの学校生活を支援します。

講座のしくみ

2008年9・10月にかけて全14日間の講座を受講します。講座は港区浜松町の個別支援室で、原則10～15時に開催します。なお、区内小中学校・養護学校で行う2回の実習を含みます。また、一部の講座については有料で公開します。

対象と条件

- (1) 学習支援員(LSA)に関心を持ち、講座終了後は港区の要請に応じて港区内小中学校にて学習支援員として週3日程度授業時間内に勤務可能なこと(勤務は有償です)
- (2) 上記講座に全て出席できること
- (3) 高卒程度以上の学力を有し、健康であること

定員：30人

費用：20,000円(テキスト材こみ)

申込：個別支援室(電話&FAX 03-5401-1199 minatolsa@yahoo.co.jp)まで、①住所 ②氏名 ③年齢 ④職業 ⑤電話番号とともに8月15日(金)までに申し込み頂ければ、募集要項を送付します。記入返送された方には書類審査のうえ受講案内を送付します。

日程：日程：9月と10月の月曜日と金曜日14日間(10月20日から24日の間に見学実習あり) 詳しくは7月21日発行の「みなと区報」にて

発達障害はじめての一步 ～特別支援教育のめざすもの～

発達障害を簡単に紹介する本が出ました。この本は前半で発達障害(ADHD・アスペルガー・LD)を前半で、「症状」「ケア」「解説」「4コママンガ」で構成され、発達障害の特徴がわかります。後半は発達障害がわかった人々に、どんな支援をするのが望ましいかを段階を追って述べています。特別支援

教育に関しても簡易にまとめられています。字数も少なく、大きめの活字を使用しているため、ディスレクシアの人々にも読みやすくなっています。

著者：石崎朝世・藤井茂樹

出版社：株式会社 少年写真新聞社

値段：1200円＋税



最近の活動紹介

2月25日	平成19年度特別支援教育ネットワーク推進委員会(40人参加)
2月27日	UD協議会 講師(20人参加)
3月8日	港区国際交流協会で講演(20人参加)
3月18日	DAISY DXキャンペーン実行委員会(10人参加) 港区次世代育成検討会(30人参加)
3月28日	LSAフォローアップセミナー「国語・算数」(34人参加)
4月2日	LSAフォローアップセミナー「作業療法士」(30人参加)

4月22日	自民党本部で講師(50人参加)
5月21日	大田三田会 講師(20人参加)
5月24日	効果測定発表会(100人参加)
6月3日～15日	ホテルオークラ絵画展
6月14日	杉並十中 講師
6月19日	川崎市PTA
6月22日	ディスレクシア名古屋講演会
6月23日	三重県訪問

今後の予定

8月2日～3日	発達障害学会にて効果測定を発表
8月22日	千葉県教職員研修にて講演
9月1日～10月31日	第7期LSA養成講座

第17回DX会報告

柴田章弘

4月5日(土)、第17回DX会は18人(男8名、女10名、内訳は当事者12名、支援者6名)の出席で、子ども家庭支援センターの隣、地域活動室で行われました。多くの人々が来てくれたのは主催者としてはうれしい悲鳴でした。子ども家庭支援センターの庭には桜の木が数本あります。例会の前に外で花見を楽しんでから本番に入りました。参加者をペアにして、お互いに良いところを探すゲームをす

ることにしました。3つの質問「1好きなこと2毎日、継続していること3小さいときに持っていた夢」でした。ペアになった人々が3分ぐらいずつ聞き合い、それをお互いに発表することにしました。三つの情報を基に、他人から自分を誉められることは少し照れくさいものですが、やってみると、段々真剣になってきました。「言うほう」も、「聞くほう」も、次第に良い気分になってきました。全員が発表

し終わるころになると、顔が和んで、リラックスする様子が見えてきました。

自分のことをPRすることは意外に難しいものです。まして、ディスレクシア・LDの人々とはときどき自分を過小評価しがちです。でも周囲から誉められると何となくその気になり、自信が出てきました。うれしいことです。次回の例会が楽しみにになりました。

愛をはこぶ人キャンペーン

愛をはこぶ人キャンペーンは、6月3日(火)～15日(日)の期間で、ホテルオークラ東京にてマッケンジー・ソープ来日絵画展を急遽開催いたしました。8日(日)にはソープ氏が会場を訪れて、サイン会も開かれました。毎回恒例となっておりますディスレクシアを中心としたLDの啓発コーナーを関心深く見る人が多く、内容について積極的に質問をされる人も増え社会的な関心の高まりを感じました。愛をはこぶ人キャンペーンでは、今年EDGE設立の原

点であるディスレクシアの啓発と支援に回帰いたします。LDの中でも特にディスレクシアは、欧米においては社会的に障害というよりも、彼らの優れた能力を活かすことによって、社会の変革や進歩を促し、歴史を開拓していく存在として、積極的に評価されています。21世紀に入って世界史が全く新しいパラダイムにシフトして行く中で、彼らの能力はまさに時代が必要としているのです。愛をはこぶ人キャンペーンでは今年の秋に、このような積極的な視点に

立って、ディスレクシアを応援する様々な企画を予定しています。また、4月から始まったNHK特集「病の起源」でも、今年の秋に、天才の生まれる時との視点で、ディスレクシアを特集します。愛をはこぶ人キャンペーンに関わった人たちが、様々な善き出会いや出来事の中で、自分の人生の素晴らしさを実感できる「きっかけ」を発見して頂ければと思います。皆様の積極的なご支援とご参加をお願い致します。

文責：藪 巧一



Report from the EDGE - 第17号 -

2008年6月25日発行

発行者 NPO法人EDGE

発行責任者 藤堂栄子

東京都港区浜松町1-20-2 村瀬ビル3F

Tel. 03-6240-0670・0672

Fax.03-6240-0671

編集 NPO法人EDGE事務局 柴田章弘

印刷 株式会社 信英堂

<http://www.npo-edge.jp>

http://blog.livedoor.jp/npo_edge/

E-mail: info@npo-edge.jp